

人々を海をくぐりて事侍りしに

司の上はおもひいそむを玉の

君髪山の雲れをりし

とありやに等海館の事と見え

一多海山

當分の山にありて飽海坐理二郡に隣りり
古人日本書記の高山といふ丁よりて十七
丁五十八丁又一人一分余ありとて系行天皇
御宇大相忌神社當山（東現のそ後
後明天皇二十五年は山は北陸にそ後

平城天皇の御宇吹浦村は移居と縁起
あり社に某師の仏像并十二神將あり堂長
三間幅二間半長床に間幅二間飽海郡をけ
山の表はとー古ハ吹浦座忌並列當りて
坐理郡を裏はとー矢崎小瀬瀬河等に流
流あり流流あり某師神像田三十二石二
斗一本八合九々座忌村にあり波地は平百
石十石一斗六斗三合の内之吹浦村寺なり乃
旧記曰多海山有三道以海を為す之乃若
吹浦吹浦坐理也と云ふ今吹浦別当山